



笑 楽しいがイチバン！

Dig.Max八幡平バレーボールクラブ

ディグ マックス

Dig(ディグ)とは、バレーボール用語で、相手陣からアタック・ヒットされたボールを受ける動きのこと。「Dig」掘る「動作に似ていることからそう言われる。チーム名にその言葉を冠した『Dig. Max 八幡平バレーボールクラブ』は小学生男女混合のチームだ。

ディグは守備動作であり、チーム名にそれがあると、守り重視のスタイルなのではと思われることもあるようだが、彼らはそうではない。ディグを繰り返して、粘りに粘りを重ねることによって、攻撃に転じていくという攻めの姿勢を追求していくことを目標にしている。

平成24年4月に結成し、4年目を迎えた彼らは、ついに念願の県大会初制覇を成し遂げ、全国に挑戦する機会を得た。厳しくつらい練習を重ねてきたのかと思いきや、覚悟して練習場所をのぞくと、予想に反し、笑い声のオンパレード。誰ひとり険しい表情をしていないメンバーはいない。みんなにこやかに楽しそうにコミュニケーションを取っている。彼らのモットーは「とにかく笑って、とにかく楽しむこと」。練習中も休憩中も試合中もだ。『笑う門には福来たる』彼らはそれをバレーボールを通して、自然に体現している。



田村正彦市長に県大会初制覇と全国大会出場を報告するDig.Max八幡平VBCメンバー(8月4日)

ファミリーマートカップ第36回全日本バレーボール小学生大会岩手県大会は、6月25、26の両日、花巻市総合体育館で行われた。リーグ戦で遠野Dark Horse(遠野市)、石鳥谷N・ラビッツ(花巻市)、高田クラブ(陸前高田市)の3チームを相手に全てストレートで勝利。全員のサーブの調子が良く、チームの弱点である緊張を打ち負かし、伸び伸びとしたプレーで優勝を勝ち取った。

監督の工藤秀一さんは「練習試合や大なり小なり公式試合を多くこなした場数を踏んできたことで、緊張感に対して強くなり、バレーを楽しむことができるようになったことが勝因です」と語る。結成4年目にしてつかんだ栄光であった。



果敢にアタックするレフトの武藤桃香(8月11日、千葉県浦安市運動公園総合体育館) 写真提供:Dig.Max八幡平VBC



円陣を組み戦略を確認するメンバーたち 写真提供:Dig.Max八幡平VBC

揮できなかった。悔しさは残ったが、精いっぱい全国レベルを体感した。八幡平市に戻り、彼らは「もっとバレーをやりたいと思うようになった」とうれしそうに話す。全国の舞台は彼らに試練を与えつつも、強さを身に付けるためのひとつのステップを踏ませた。この経験は、彼らにとってかなり大きい。これから楽しんで分だけ、きつともっと強くなる。



工藤 秀一 監督

勝つための指導をしたことは、一度もありません。試合の時は「楽しんで来い」と言っただけで、彼らを試合場に送り出します。勝つことより、バレーボールの楽しさをチームメンバーには伝えたい。楽しむことによって、自然と力は後からついてくるものなんです。また、いいプレーをしても、ミスをして笑ってみんな盛り上がる。チーム力を上げるとともに、バレーボールを通して、仲間を大事にする心を育てていきたいです。



遠藤 怜美 主将

県大会では、メンバー全員が常に集中してボールを追いかけて続けたこと、いつもの笑顔でプレーができたことで、優勝という今までで一番良い成績を収めることができました。全国大会では、どの試合でも緊張からうまくチームの力を発揮することができませんでした。それが、それも私たちにあって良い経験だったと思っています。この経験ができたのも家族や周りの人たちのおかげです。これからも感謝と笑顔を忘れず頑張りたいです。

チームメンバー紹介

氏名
小学校・学年
背番号・ポジション

- ① セッター 遠藤 怜美さん 武藤 桃香さん 大更 小6年
- ② レフト 渡辺 春君 工藤 大智君 大更 小5年
- ③ ライトバック 田村 朋希君 大更 小6年
- ④ ライト 武藤 天翔君 八重 檉凛さん 大更 小4年
- ⑤ ライト 熊谷 聖斗君 大更 小4年
- ⑥ レフトバック 大更 小4年
- ⑦ レフト 大更 小4年
- ⑧ センター 大更 小4年
- ⑨ ライト 大更 小3年